地域病院のめざす坂の上の雲

震災、その時わたしは

壊滅的な被害をもたらした鳥取県西部地震から1年 目標を掲げ全員で新たなスタートを切った日野病院を振り返り綴った1冊

日野病院

地域病院のめざす坂の上の雲

震災、その時わたしは

避難先の体育館はその時野戦病院と化した（写真　共同通信社）

発刊に寄せて

日野病院組合 日野病院
管理者・日野町長 生 田 秀 正

激動の20世紀がいよいよ閉幕しようとしていた2000年の秋10月６日午後１時30分頃、鳥取県西部を震源とする地震が突如として発生しました。

この地震はマグニチュード7.3、震度６強、記憶に新しい阪神・淡路大震災をしのぐ大地震となりました。

この度、鳥取県西部地震から一周年が経ったのを契機に、地域の中核病院としての日野病院が、全国の病院に先駆けて震災の記録集を発刊する運びとなりました。

この地震により、昭和15年創設、昭和45年改築増床等幾多の変遷を辿り、日野郡地域の歴史と伝統に育まれた旧日野病院は壊滅ともいえる被害を被りましたが、幸いにも地震発生時が昼食時を過ぎており、火気の使用が少なかったことなどから火災も皆無であったこととともに、職員の冷静な判断、一体となった迅速な行動により、74名の入院患者全員を無事避難させ、一両日中のうちに近隣病院及び各施設等に転院、収容させることができました。

職員の絶大なご尽力に対し、ここに改めて心から謝意と敬意を表したいと存じます。

今回発刊された本誌が、今後の自然災害等緊急事態発生時に少しでもお役に立つことを祈念いたすものであります。

発刊に携われました堀江病院長をはじめ関係職員の方々のご努力に対し感謝申し上げますとともに、日野病院が“我が病院”として、構成の日野・江府・溝口３町民はもとより、近隣地域住民の皆様から将来にわたって中山間地域の医療、福祉、保健の機能を果たすことのできる中核病院として益々信頼され、親しまれ、満足度が高く、そして地域の発展に貢献する病院となりますよう念願して止みません。

今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げ、発刊のご挨拶といたします。

平成13年10月吉日

旧病院前での朝礼

地震直後の病院駐車場の様子（写真　共同通信社）

地震体験と記録誌発行に向けて

日野病院組合 日野病院
院長 堀江　裕

昨年10月６日の鳥取県西部地震で病院が崩壊し全く病院が使用不能になった病院は全国広しといえども日野病院だけであります。震災後12時間たっての真夜中の会議のテーマは避難している患者さんを今後どうするかでした。地震によるひび割れもさることながら、病院の屋上にある貯水槽が壊れて全くつかえない状態でいつ復旧するか見当もつかないことから、すべての患者さんを近隣の病院にひきとってもらい病棟を空にする事を決めました。

そうはいってもすでに新病院がすでに日野川をはさんだ川向こうに８日前に出来ていましたので、それが職員一同の大きな心の支えになりました。 震災翌日の10月７日、県内各地からの応援の救急車で、西部地区病院、とりわけ博愛病院、国立米子病院に患者さんをまとめて面倒をみていただきました。患者さんの移送作業は午後２時には終わり、途方に暮れる間もなく役場の保健婦さんと連絡をとって町内９箇所の避難所巡りをしました。幸い事故もなくスムーズに移転作業が終了したことは本当に有り難いことで、天地神明神仏の加護のおかげと思った次第です。

約1000年ぶりの地震に遭遇しても新病院で被害もなくけがや死者もなかったのです。60年の歴史のある病院を約１カ月の停止のみで21世紀へと無事移行したことは思えば有り難いことだと思い直しました。新病院建設を躊躇なく決断された生田秀正日野町長様、福田正臣江府町長様、住田圭成溝口町長様、３町議会議員様、片山善博鳥取県知事様を始めとする県関係の皆様、また先祖伝来の土地を提供された地権者の方々をはじめとする関係各位の皆様に感謝したいと思います。

震災から１年が経過して、平素、水と油と思っていた病院が患者さんあってこその病院であると再認識したことも教訓の一つでした。今回の震災体験を少しでも病院の内部から書き残すことは、稀な体験をしたものの努めと思い記録集の発行を思い付きました。過疎に拍車がかからないように病院も地域の元気の出る牽引者となるべく気を引き締めていく必要が有ると思います。今後ともよろしく御指導御鞭撻のほどお願い申しあげます。

目　次 Contents

Section1　鳥取県西部地震概要

概要と被害 …… 10

その特徴 …… 11

病院の被害状況 …… 13

ドキュメント …… 15

Section2　震災体験手記「その時私は…」

堀江　裕 …… 18

岡野一廣 …… 19

松浦隆彦 …… 20

足立晶子 …… 21

長谷川次郎 …… 22

辻本　実 …… 23

枝原瑞江 …… 24

吉川千明 …… 25

竹永真由美 …… 26

小林博子 …… 27

新田ひとみ …… 28

青木久枝 …… 31

仲石康子 …… 33

長谷川弘子 …… 34

木川藤子 …… 36

生田伸二 …… 37

頭本保人 …… 38

Contents 目　次

川上和彦 …… 39
遠藤隆則 …… 40

Section3　震災体験座談会

災害を通じて思うこと …… 42

Section4　新聞報道集

地震と医療 …… 52

Section5　復興活動

新病院開院 …… 58

Section6　教　　訓

看護室 …… 66
手術部 …… 67
放射線室 …… 68
透析室 …… 69
リハビリ …… 70
訪問看護ステーション …… 71
栄養管理室 …… 72
薬局 …… 73
医事・総務 …… 74

Section7　あとがき

院長あとがき …… 76
病院沿革 …… 78
新病院全景 …… 79

section 1 鳥取県西部地震 概　要

平成12年 鳥取県西部地震

概要と被害

資料提供　鳥取県西部消防局

発生時刻　平成12年10月6日　午後1時30分頃

震源地　鳥取県西伯郡西伯町～日野郡溝口町付近
（北緯35.3度　東経133.4度）

地震の規模　マグニチュード　7.3
震度6強　境港市・日野郡日野町
6弱　西伯町・会見町・日吉津村・淀江町・溝口町
岸本町・江府町・日南町
5強　米子市
5弱　中山町・名和町・大山町

被害の状況
（1月12日迄の間の最大値）

負傷者　106人（重傷30人、軽傷76人）
住民の避難　1日当たりの避難人員最大値　2,703人
（各市町村の避難人員最大値計　3,031人）
家の損壊（1月12日現在）　全　壊　373戸
半　壊　2,341戸

西部震度地図

各地の震度

日野町の位置

各地の震度

過去の地震

県内での過去100年間で、昭和18年9月10日**マグニチュード7.2の鳥取地震**が最も大きな被害を受けた地震であった。震源は鳥取付近、鳥取市の被害は全体の約80パーセントに達し、死者1,083人、家屋全壊7,485戸という大惨事であった。昭和に入ってからは、昭和30年鳥取県西部を震源とする地震で最大マグニチュード5.5を記録し、日野郡根雨町で石垣や橋の脚台が破損した。昭和58年には鳥取県中部でマグニチュード6.2を記録、負傷者13人、被害総額2億2,455万9千円という被害を受けた。

最近では平成元年10月27日鳥取県西部を震源としたマグニチュード5.3、同じく11月2日マグニチュード5.4と続けて被害を受け、さらに平成9年9月4日には同じく西部を震源としたマグニチュード5.1の地震が発生しているが、一部断水、屋根瓦の破損などの被害を受けた程度で、比較的目立った被害は見受けられなかった。

地震のメカニズム

鳥取県西部地震は西伯町の地下10kmを震源として、北北西から南南東に長さ約20km、幅約10kmの左横ずれ型の震源断層により発生した。

震度の特徴

山間部の日野町と沿岸部の境港市で「震度６強」が記録されている。また、震度の大きな地域が震源の南側（岡山県から四国まで）に広がっている。逆に震源までの距離は近いが比較的震度が小さいのが松江、鳥取、出雲などである。

被害の特徴

被害は震度６の地域に集中している。マグニチュード7.3の地震にしては死者もなく、火災も発生しなかった点など、規模の割には被害は少なくなっている。これは、発生時刻が午後１時30分頃というおおむね昼食後であったこと、人が活動している時間帯で避難、誘導なども比較的スムーズにできたこと、震源及び激震域が山間部で住宅が密集していなかったこと、地盤が比較的良かったことなどが考えられる。

被害の種類

（１）家屋の倒壊、山間部での斜面崩壊、落石などの地震動による被害

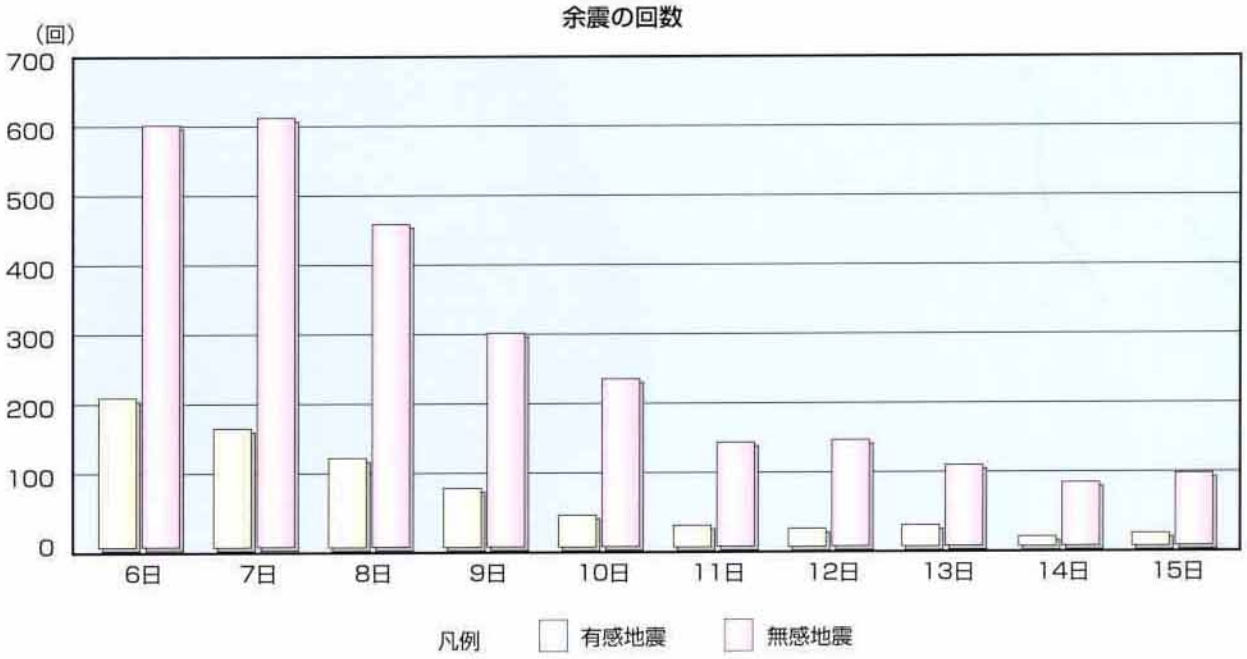
（２）沿岸部での液状化現象による地盤被害

（３）都市型の被害

境港市、米子市など都市部では、湾岸岸壁の崩壊、マンホールの抜き上がり、電信柱の沈下など、ライフラインの被害が随所に見られた。

余震活動

余震活動は、震源断層に沿った細長い帯状の地域に集中している。この中で、最大余震マグニチュード5.0が北の幅近くに発生している。そして、誘発地震群が２ヶ所あり、割算型の分布をしている。南西の日南町―島根県横田町ではマグニチュード5.5の地震が発生している。



各地の被害状況

特に日野町と同じ震度６強を記録した鳥取県境港市では、家屋全壊・半壊合わせて240数棟、負傷者においては県内最大数の86名にのぼっている。幸い地震による火災・死者は発生していなかったものの、軟弱地盤が影響して被害が拡がり、各地で液状化現象が起きている。

▼竹内団地の液状化現象（上空から撮影）

▼富益団地

▲崩壊した上道神社

▲昭和町　カニ岸壁隆起

米子市内の重要文化財　後藤家住宅では土塀の倒壊や柱のゆがみがでるなど、その被害は深刻なものとなった。震災当時その復興は見通しが立たず、関係者らを悩ませていた。

18世紀初めの建築物で、県内で初めて昭和49年重要文化財指定。その後、年月が経つにつれて修復作業も何度か進められてきたが災害による被害がこれほどでたのは初めて。

▲被害の大きかった後藤家住宅

他にも角盤町にある米子市公会堂でも舞台の梁に亀裂が生じるなどの被害が目立ち、イベントを中止したのをはじめ、加茂町の素鳳館では展示品が数点倒れ、福市の福市資料館では展示土器が壊れるなどの被害がでた。

▲屋上に設置しているコンクリート製の看板が根元から割れて3階会議室の上に落下し、屋上がひび割れ多量の雨漏りが発生。残った部分もひび割れ、落下の恐れがあり診療棟は立入禁止（赤札）となった。

▲病院建物4階の搭屋に設置している受水槽が破損し、診療所にひび割れ、水漏れ発生

▶手術室（手洗い準備室）の外壁、ガラス窓の破損

▲渡り廊下（1・2・3階）のつなぎ箇所の破損

▲建物内部に多数のひび割れ（リハビリテーション室）

▲建物外壁のタイルの落下

▲薬局内の医薬品が棚から落ちて破損

▲診療棟階段のひび割れ

▲病棟湯沸かし室及びトイレタイル壁の破損

▲駐車場内陥没

月	日	時　刻	出　来　事
10	6	午後1時30分頃	鳥取県西部地震発生　直後停電、断水になる
			機械室より煙発見、確認の結果発電機の排気ガスと判明
			「患者を出せ」の怒鳴り声とともに入院患者74名（独歩35名、護送8名、担架31名）を全員駐車場に避難させる
			対策本部設置（本部長　岡野副病院長）
		午後1時50分頃	避難終了
			震災対策委員会開催
			テント張りの仮診療室設営
		午後2時頃	地震による外来救急患者が来院しはじめ、診察を行う
			岩が落ち車に閉じこめられた患者、土砂に埋まった患者、家が倒壊し下敷きになった患者、沸騰したやかんの湯が顔にかかった患者など、重症患者も来院したが、仮設の診療所ではどうにもならず、応急処置をして米子、倉吉市内の病院へ転送する
		午後2時頃～	電気喀痰吸引器が必要な患者を隣の電気が来ていた保育所に避難
			日野町役場から社会体育館使用の許可を得る
			駐車場から患者を独歩、ストレッチャー等で社会体育館に移動させる
		午後3時頃～	保育所の重篤な患者8名の移送のため日南病院と救急隊へ連絡し移送開始 しかし道が至る所で寸断され、午後8時過ぎにようやく日南病院へ到着 他にも鳥大附属病院へ1名、溝口中央病院へ1名、国立米子病院へ1名搬送する
			体育館に布団、ベッド、カルテ、他必要機器配送開始
			江府町の水工場へ水の買い出しに行く
			町内の店にパン等の買い出しに行く
			水洗トイレの水が無く、川にバケツで水くみに行く
			レンタル屋リョーキへ発電機を借りに行く
			診療棟1階数カ所の天井からの水漏れに気づく
			事務員で院内巡視したところ、屋上の受水槽の覆い壁の倒壊、病室のロッカーの転倒、窓ガラスの破損、天井の外壁落下、各部署の棚等の転倒による物品の散乱等確認する
		午後6時	入院患者の夕食は主にパンとバナナ
		午後9時頃	病院長を迎えに岡山に向かう
			対策本部は危険とみなし、入院患者を日野病院から全員出すことを検討 （病院長の帰りを待って決定としたい）
		午後11時30分	姫路の救護隊が、カイロ、飲料水を持って来院

月	日	時　刻	出　来　事	
10	7	午前2時	出張中の病院長が帰院	
			病院長を加え対策会議を開き、入院患者を日野病院から全員出すことに決定	
		午前8時から	医師らが体育館にいる入院患者の受入先病院と、運んでいただく救急隊との連絡調整を開始	
			自宅に帰れる患者はそれぞれの自宅あるいは避難所に連絡し迎えのお願いをする	
			入院患者全員の転送先決定（国立米子病院19名、山陰労災病院1名、米子病院1名、博愛病院12名、溝口中央病院1名、日南病院1名、自宅26名）	
			医師が患者一人ずつの紹介状をそれぞれの病院宛に書く	
			体育館にいた入院患者63名全員を転院、あるいは退院させる	
	8		災害対策委員会を開き、旧看護婦寮を仮診療所にして、内科、外科、整形外科の外来診療を行うことに決定	
			災害移転特別委員会を開催し、今後の職員の配置を決める	
	8～9		旧看護婦寮を診察出来るように改造する	
	9～29		災害移転特別委員会で決まった右記のような変則業務を開始する	内科、外科、整形外科の診療
				医師、看護婦等で日野町の9カ所の避難所回り
				看護婦が被災地域、被災者宅を訪問する
				看護婦が日南病院の看護業務の手伝いをする
				移転準備委員会を設立し、急遽移転の準備
				残った職員は物品の引っ越し作業
	12		鳥取県社会福祉環境・警察常任委員会委員視察	
	17		鳥取県土木部および鳥取県西部消防局による新病院検査	
	18		新病院に医療機器等物品搬入開始	
	28		新病院神事挙行	
	30		旧病院鎮魂祭挙行　午後移転開始（午後休診）	
	31		移転（終日休診）	
11	1		新病院開院　外来診療開始	
	10～		入院診療開始（初日は9名入院） 転送していた入院患者のうち、日南病院より6名、溝口中央病院より1名、国立米子病院より11名、山陰労災病院より1名、博愛病院より3名が16日までに帰院する	